

歴史探訪

クラブ

History Inquiry Club

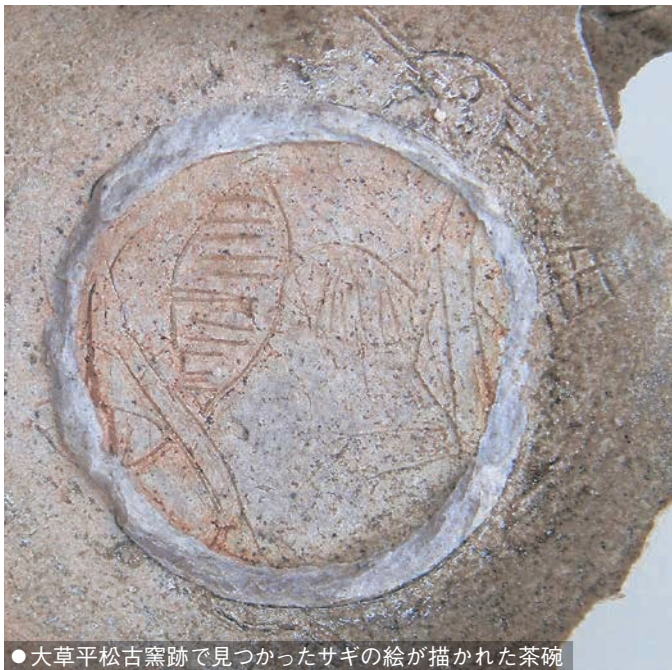


文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

大草平松古窯跡で見つかった サギの絵

平成23年の春先に見つかった平安時代の窯跡の整理中に、大変珍しいものを見つけました。それは茶碗に刻まれた鳥の絵です。

田原市で焼かれていた焼き物には、絵が描かれていることがあります。これまでに国指定史跡大アラコ古窯跡で爬虫類（ヤモリ?）と紅葉が、大草町の惣作古窯跡からは唐草と小動物と歌が刻まれた碗（市指定文化財）が見つっています。なん



●大草平松古窯跡で見つかったサギの絵が描かれた茶碗

といつても国宝秋草文壺、重要文化財葦鷺文壺はその代表格で、渥美半島で多く見られる特徴です。鳥は、直径16cmほどの普通に焼かれる茶碗の内面を中心に頭を交互に向け二羽描かれ、頭と首、羽根、尾、足が描き分けられています。一羽の鳥は、長い嘴と頭の後ろに冠羽があり、首は長くはつきりと表現されています。翼は体に対して左右に開いた状態です。これだけ見ると、左の翼は凸レンズの断面のよう

な区画内に、乱雑に線が引かれ、右の翼にいたっては木の葉のようです。胴部は平行線で、ウナギのように細長く、足は体に対してほぼ直角に、足指が3本開いた状態で表現されています。もう一羽の鳥は、同じように長い嘴と長い首が明確に表現されています。顔周辺は良くわかりませんが、冠羽はないようです。グライダーのように、風に乗っているように見えます。

二羽とも同じ鳥を描いていると思います。長い嘴と長い首、長い足、冠羽があることから、サギの仲間のことです。渥美半島ということを考えればコサギの可能性が高いでしょう。サギは首を曲げて飛びますが、周囲を気にするときは、着陸するときは、首を伸ばすそうです。サギは、弥生時代から土器や銅鐸に描かれています。大きく美し

い鳥であるため人目につきやすく、馴染み深いというだけでなく、サギが集まる田んぼは、豊作になると信じられていたようです。碗に描かれたサギは、お世辞にも上手とはいえませんが、その特徴を的確に捉えています。おそらく絵師ではない焼き物作りの職人が、何かの拍子に描いたものでしょう。

この鳥が描かれたのは、平氏から源氏の時代が変わろうとした激動の時代です。のどかな渥美半島の風景を、どのような思いで描いたのでしょうか。

※鳥の特徴は、渡辺幸久さん（高松町）から意見をいただきました。冠羽とは、夏の繁殖期に現れる、頭の後ろに飛び出した羽根のこと。

（増山）

今月の「表紙」

▼2月14日はバレンタインデー。アメリカではバレンタインに、男性から女性へバラなどの花をプレゼントするのが一般的なのだとか。田原市のバラの産出額（平成18年生産農業所得統計）は日本一。花を贈る文化が根づき、田原市産のバラで、たくさんさんの笑顔が咲くといいなと思います。（○）

【表紙の写真】バラの花束